



2024年3月1日

Weber-Stephen Products Japan 合同会社

お客様各位

## Weber Q1250 ポータブルガスグリル 安全なお取り扱いのために

平素はWeber製品をご愛用いただき、まことにありがとうございます。

Weber Q1250 ポータブルガスグリルを末永く安全にご使用いただくために、ここに改めて製品使用時の安全確認項目についてご案内申し上げます。こちらに記載されております手順に沿って製品を適宜ご確認いただき、万一製品に異常が見られる場合は、弊社カスタマーサポートまでお問い合わせください。

Weber カスタマーサポート

お電話：03-4588-9530

メール：supportasia@weberstephen.com

営業時間：

日本語・英語：平日 10時～19時

土曜日・日曜日・祝日 休み

(※詳しくは弊社ホームページをご参照ください。)

### ガス缶の取り扱いおよび接続に関する重要事項

#### 【危険】

予備のガス缶や接続されていないガス缶を、グリルの下やグリルの近くに保管しないでください。

#### ガス缶の安全な取り扱いについて

ガス缶を使用する際、留意すべき安全に関する注意事項やガイドラインがあります。本製品をご使用前に、以下の指示に注意して従ってください。

#### ガス缶に対する注意事項

- 破損したり錆びついたりしたガス缶は、使用しないでください。
- 空になったガス缶も、中身の入ったガス缶と同様に注意して扱ってください。液体が空になっても、気体のガスが残っている場合があります。

- ガス缶を落としたり、乱暴に扱ったりしないでください。
- ガス缶は絶対に、高温の場所で使用したり保管したりしないでください。ガス缶を暑い日に自動車内に放置しないでください。
- ガス缶をレギュレーター（ガス圧力調整部品）の接続部に接続するたびに、接続部分のガス漏れテストを行ってください。
- ガス缶は、絶対にお子様の手が届かない場所に保管してください。
- ガス缶の周辺に、ゴミや燃え易い物を置かないでください。
- 火災の原因となるような物の付近でガス缶を交換しないでください。

## 保管時のガイドライン

グリルをしばらくの間保管状態とする場合は、以下のガイドラインに従ってください。

- グリルを使用しない時は、ガス缶を取り外してください。取り外したガス缶は、狭い閉鎖された場所に保管しないでください。
- 製品を再使用する前に、ガス漏れとバーナー管の詰まりを点検してください。次ページの「グリルの使用準備」を合わせてご参照ください。
- グリルを輸送する際は、ガス缶を取り外してください。

## レギュレーターとの接続について

### ガス缶をレギュレーターに接続する

レギュレーターは、ガスがガス缶内の圧力から解放される際に均一な圧力となるように調節・維持を行う部品です。レギュレーターの接続部に、ガス缶を接続します。Weber ロゴの入ったガス缶をご使用ください [1]。

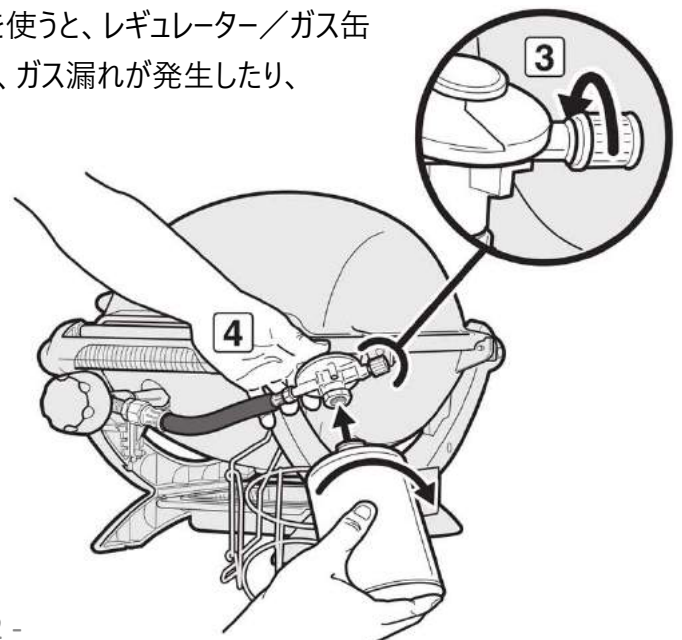
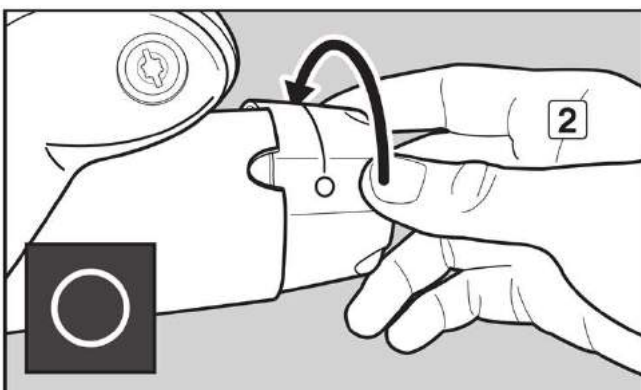


1

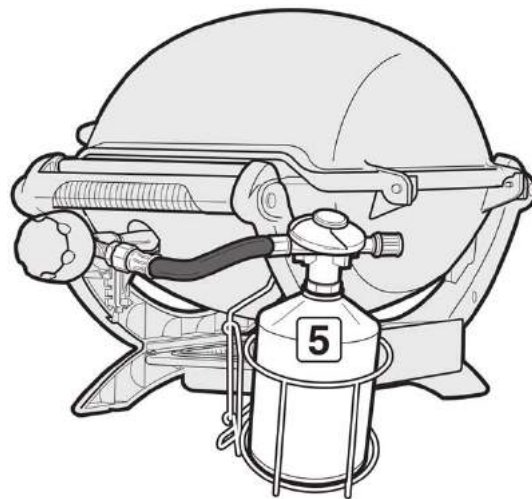
- A) バーナー調節つまみを「オフ」(O) の位置まで時計回りに回して、オフになっていることを確認してください [2]。
- B) レギュレーターのガス制御弁をきつく閉まるまで時計回りに回し、オフになっていることを確認してください [3]。
- C) ガス缶の接続部をレギュレーターの接続部に当て、しっかり閉まるまでガス缶を回してねじ込んでください [4]。

### 【警告】

ガス缶は必ず手で回してねじ込んでください。過剰な力を使うと、レギュレーター／ガス缶双方の接続部が損傷する場合があります。この事により、ガス漏れが発生したり、ガスの流れが妨げられたりする場合があります。



D) ガス缶をサポートバスケット（保持用かご）に正しくセットします [5]。ガスホースにぶら下げたままの状態にしないでください。



## グリルの使用準備

### ガス漏れチェックとは

ガス漏れチェックは、グリル内のガスの流路（ホース接続部や接続金具など）からガスが漏れないことを確認する、信頼性の高い方法です。

製品は工場での製造時に厳密なチェックを受けていますが、グリルの初回使用時、接続金具を外して再度接続する時、定期メンテナンスの実施時などには、必ずガス漏れチェックを行ってください。

### 【危険】

ガス漏れのチェックに裸火を使用しないでください。ガス漏れをチェックする際に、付近に火花が飛んだり裸火があつたりしないようにしてください。火花や裸火は、大けが、死亡、または器物の損壊を引き起こす火災や爆発の原因となる恐れがあります。

### 【警告】

- グリルのガス接続部は、工場出荷時に検査済です。しかし弊社では、ガスグリルのご使用前にあらゆる接続部分のガス漏れチェックを行うことを推奨しています。
- 販売代理店または小売店がグリルを組み立てた場合も、これらのガス漏れチェックを行ってください。
- ガス漏れチェックは、ガス接続部品の取外しや再接続をする度に行ってください。

### ガス漏れチェックの手順

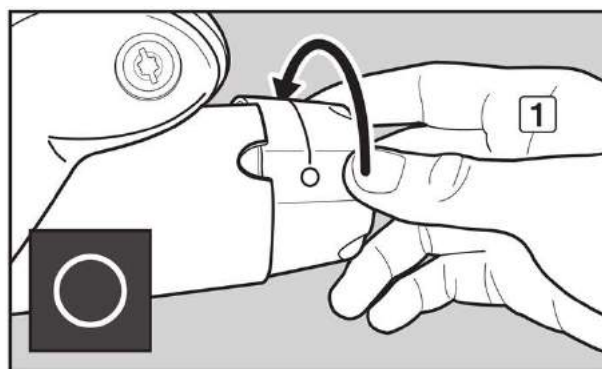
以下の器具・材料をご用意ください。

- スプレーボトル（霧吹き）もしくはブラシ・布
- 石けん水（石けん水は、液体洗剤と水を2：8の割合で混合して作ることができます。ホームセンターの配管用品売り場にある市販のガス漏れ検知液を使用しても構いません。）

A) レギュレーターへのガス制御弁を時計回りいっぱいに戻し、閉じていることを確認します。

B) バーナー調節つまみを「オフ」(○) の位置まで時計回りに押し回して、オフになっていることを確認します [1]。

C) レギュレーターへのガス制御弁を反時計回りいっぱいに戻して、ガス栓を開きます [2]。



### 【警告】

- ガス漏れチェック中は、バーナーに点火しないでください。
- D) スプレーボトル（霧吹き）またはブラシ、布を使用して、以下の接続部を石けん水で濡らし、ガス漏れがないかどうかチェックします。泡が現れたり膨らんだりする場合、ガス漏れの可能性があります。

#### a) レギュレーターとガス缶との接続部 [3]：

この部分に漏れがあった場合は、ガス缶を取り外します。グリルは使用しないでください。改めて別のガス缶を取り付けて、石けん水で漏れがないかどうか再度確認します。別のガス缶を取り付けてもガス漏れが解消されない場合は、ガス缶を取り外し、レギュレーターのカス制御弁を時計回りに回して閉じます。グリルは使用せず、弊社のカスタマーサービスまでお問い合わせください。

#### b) バーナー調節つまみのバルブとガスホースとの接続部 [4]：

もしくは

#### c) ガスホースとレギュレーターとの接続部 [5]：

接続部 [4] もしくは [5] でガス漏れがあった場合は、ガス缶を取り外し、レギュレーターのカス制御弁を時計回りに回して閉じます。グリルは使用しないでください。その上で、弊社のカスタマーサービスまでお問い合わせください。

- E) ガス漏れのチェックの結果、異常が見られなければ、石けん水が付いた接続部を水ですすぎます。これで確認作業は終了です。

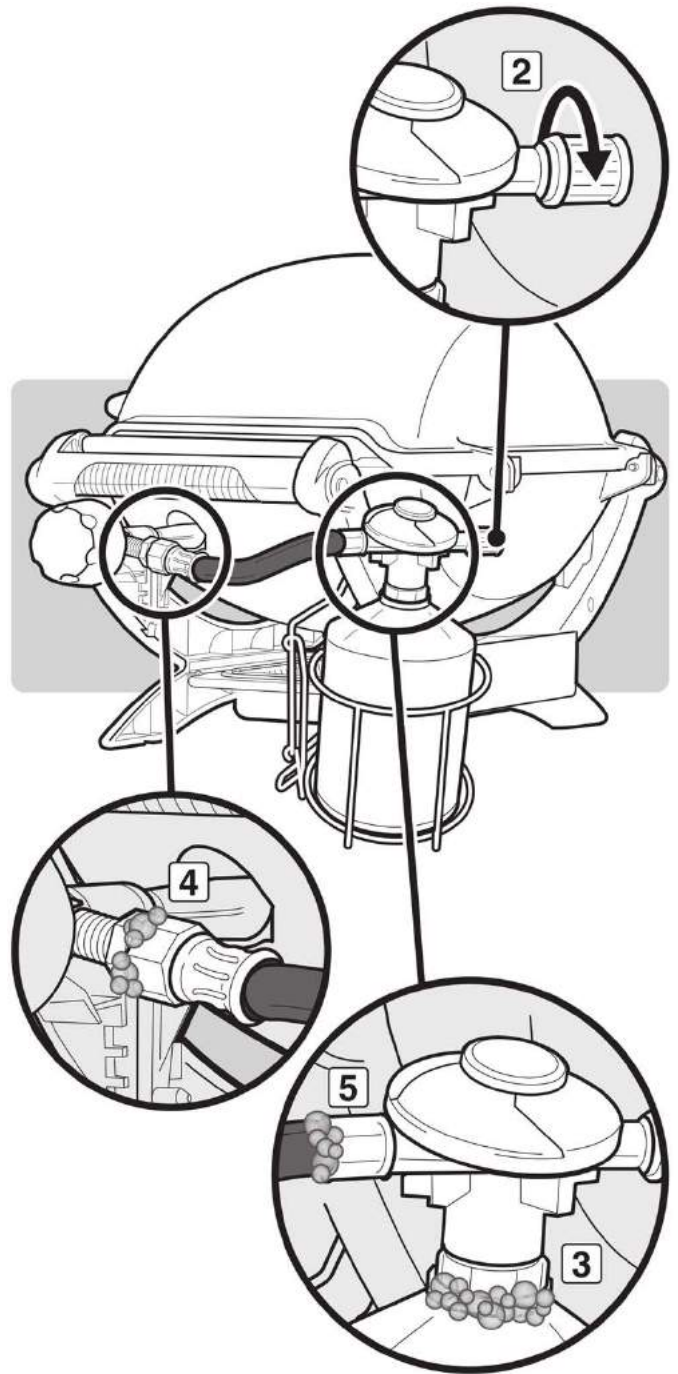
### 【注記】

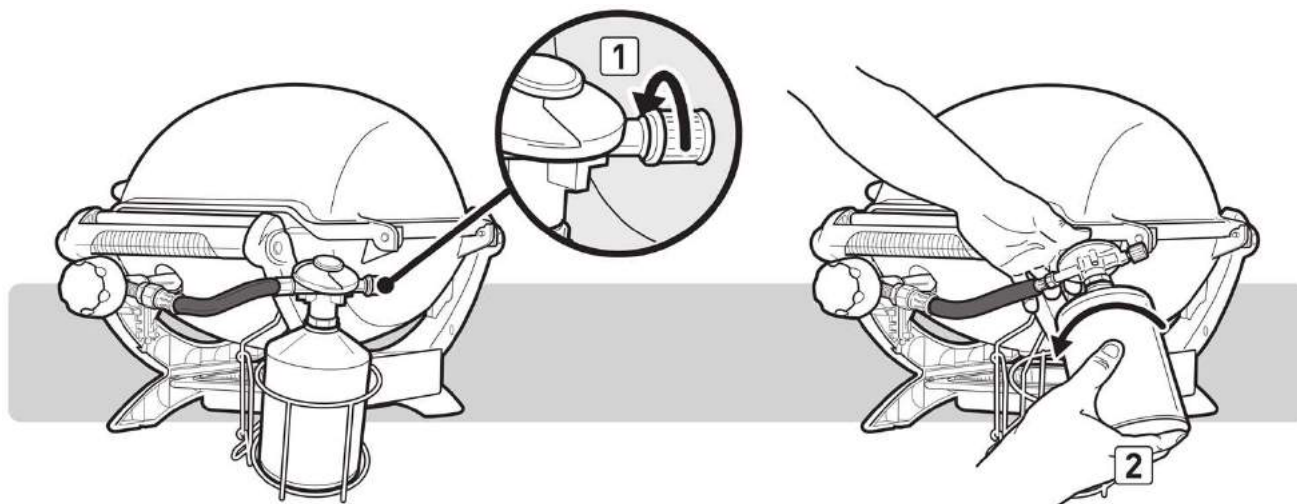
- 石けん水をはじめ一部のガス漏れ検知液は、多少の腐食性を持つ場合があります。ガス漏れチェックの後は、石けん水を付けた部分を水洗いしてください。これでグリルを使用する準備ができました。

### ガス缶の外し方

ガス缶を取り外す場合は、以下の手順に従って行ってください。

- A) バーナー調節つまみを「オフ」(○) の位置まで時計回りに押し回して、オフになっていることを確認します。  
B) レギュレーターのカス制御弁を閉まるまで時計回りに回し、オフになったことを確認します [1]。  
C) ガス缶を反時計回りに回して、レギュレーターから外します [2]。





## 調理を行う前の安全確認

調理を行う前に、いくつかの安全チェックを行う習慣をつけることを推奨します。

グリルの設置・操作場所を決める際は、安全性について考慮する必要があります。グリルを設置・使用する前に、以下の警告をお読みになり、その指示に従ってください。

### 【警告】

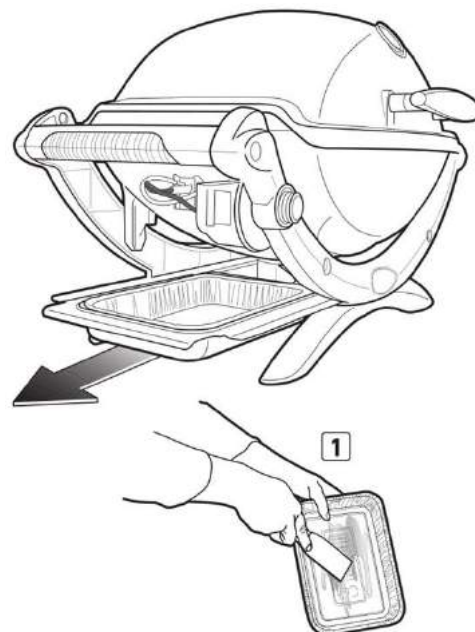
- グリルは屋外の換気の良い場所でのみ使用してください。ガレージ、建物、屋根付き通路、倉庫、小屋やその他の閉鎖された場所では、使用しないでください。
- グリルは、防炎加工をしていない可燃性の屋根やひさしの下では絶対に使用しないでください。
- グリルは、トレーラーハウス内やボートの上に設置するようには設計されていません。
- グリルは、ステーションワゴン、ワンボックスカー、ミニバス、トレーラーハウスなどの車両の中、あるいは車のトランク内で使用しないでください。
- 調理を行う場所に石油やアルコールなどの可燃性の気体や液体、その他の可燃物を置かないでください。
- 使用中は、調理ボックス全体が熱くなります。触らないでください。
- グリルの操作中、あるいはグリルに火がついている間は、グリルを動かさないでください。
- 調理の際、グリルは可燃物のない平らで安定した場所に設置してください。
- グリルを使用する際は、耐熱性のバーベキュー用ミットやオープン用グローブを使用してください。

## スライド式キャッチパンとドリップパン

調理時に出る油脂や食材かすは、調理ボックスに落下した後スライド式キャッチパンに流れて行きます。キャッチパンにWeberドリップパン（小）を敷くことにより、油脂や食材かすを簡単に除去し、キャッチパンをきれいな状態に保つことができます。

キャッチパンのお手入れは、調理ボックスのお手入れと同様に重要です。グリルを使用するたびに、油脂などの蓄積がないかをご確認ください。プラスチック製のスクレーパーを使用してドリップパンに溜まった余分な油脂を取り除き、必要に応じて新しいものに交換してください [1]。

キャッチパンの清掃時にはお湯と中性洗剤を使用し、最後に水ですすぎます。



### 【警告】：

グリルの使用前には毎回、キャッチパンやドリップパンに油脂の蓄積がないかどうかをチェックしてください。油脂に引火して大きな炎が生じると、大けがや器物の損壊を引き起こす恐れがあります。

### 【注意】：

調理ボックスやキャッチパン、あるいはドリップパンに、アルミホイルは敷かないでください。

以上

